

女子の身体的理想像に関する研究（その9）

——上肢、下肢の幅のつり合いとその美しさとの関係について——

和 泉 貞 男

は じ め に

女子の身体的理想像とは「健康で、機能的にすぐれ、かつ美しいこと」をさすものと考ええる。

この中で、健康や機能を体育の対象とすることに異議をとねえる人は一人もないと信ずるが、美しさを体育の対象とすることには異議が生ずるおそれがある。それは、「美しさは生れつきのものであること、美しさは主観的なものであること」の二つの理由からと推察される。

しかしながら、「美しさ」は先天的な要素が多いけれども後天的な要素も含んでいるということ、また、「美しさ」は主観に左右され易いが客観性も多分に含んでいることを知らねばならない。

美しい女子を欲するのは男子の共通の願いであるが、その対象となる女子にとって、美しさを増すための心的、物的努力たるや想像を絶するものがある。それは単なる見栄とか希望とかというのではなく、命がけの欲求といえよう。

筆者もその一人であるが、いままでの体育指導者が女子のこれほどまでの強い欲求に対してどれだけの配慮をし、努力をして来たであろうか。

「人の欲する正しいことを正しくかなえさせる」ことが教育者の使命であるとするならば、女子を美しく育てることこそ体育指導者の重要な仕事の一つであるといわねばならない。

さて、美しさを体育の対象とする時、いくつかの条件が考えられるが、その第一は後天的な要素に限ることである。「努力すれば美しくなる」ということがなければ美しさを体育の対象にすることは出来ない。このことから、筆者は美しさの研究には幅育に限ることとした。

つぎの条件として、美しさの数量化、客観化があげられる。美しさが抽象的、主観的な範囲にとどまる限り美しさを増そうとする時の目標が立てられないし、教育の対象にすることが困難であろう。

さらに、美しさの研究においては、美しさを形成する要素の分析と、作業の細分化が必要である。美しさを形成する要素は極めて複雑多岐にわたることから考えて、もし美しさの要素を分析することなく総合的な評価のみに終れば、その美しさはどの要素から来ているのか、また、それがどの程度に関与しているのかがわからなくなり、目標がぼやけてしまう。このために、まず美しさを出来るだけ多くの要素に分析し、評価の際には一回にご

く少数の要素，出来れば一つの要素のみをとりあげてその評価を確実なものにした上でつぎの要素の評価に進み，最後にこれらを総合した美しさを求めるという手順が必要であろう。このことから，筆者は多くの要素の混入する実物や写真での評価を避けて，略画を用いることとした。

以上述べた理由により，筆者は美しさの評価法としてつぎの方法をとった。

- ① 評価の対象として幅育をとりあげる。
- ② 幅育をいくつかの要素（部位）に分け，その中の1～2要素のみをとりあげる。
- ③ 要素を等差的な略画にする。
- ④ 略画をアンケート用紙にのせ，多数の観察者によって評価して貰う。

なお，これまでに行った筆者の美しさの研究をあげると下記の通りであった。

- （その1） 全身並びに下腿の幅育と美しさとの関係について
- （その2） 上肢及び下肢の幅育と美しさとの関係について
- （その3） 胴体のくびれかたと美しさとの関係について
- （その4） 姿勢と美しさとの関係について
- （その5） 歩行時の膝の角度とその美しさとの関係について
- （その6） 膝の角度，足の角度とそれらの美しさとの関係について
- （その7） 上腕部の幅，形とその美しさとの関係について
- （その8） 顔の輪廓とその美しさとの関係について

今回は（その9）として，上肢（上腕と前腕）下肢（大腿と下腿）の幅のつり合いとその美しさとの関係をしらべてみることにした。

I 研究目的

この研究は女子の身体を形態からみた場合，どのような形がもっとも美しいかを数量的に把握し，今後の女子に対する体育指導の参考にしようとするものである。

今迄にも女子の身体美に関する研究が数多くなされているが，その多くは美しさについての評価が主観的な立場からなされていたり，生得的な要素（例えば長育）を評価の対象にとり入れたりしていた。筆者はもし「美しい身体づくり」を体育の目的の一つに選ぶとすれば，出来るだけ生得的な要素を評価の対象から除いて，後天的な要素（例えば幅育）をその対象とするとともに，評価については出来るだけ客観的，科学的な方法によらねばならないと考え，この方針のもとに研究を進めて来た。

今回は「その9」として，上肢（上腕と前腕）下肢（大腿と下腿）の幅のつり合いとその美しさとの関係をしらべてみることにした。

II 研究方法

研究の方法は従来通りアンケート用紙に計算値から算出したモデルを画き，それを多数の観察者に配布して美しさの順位をつけて貰う方法をとったが，その手順を略述すればつぎのようであった。

I) アンケート用紙の作成

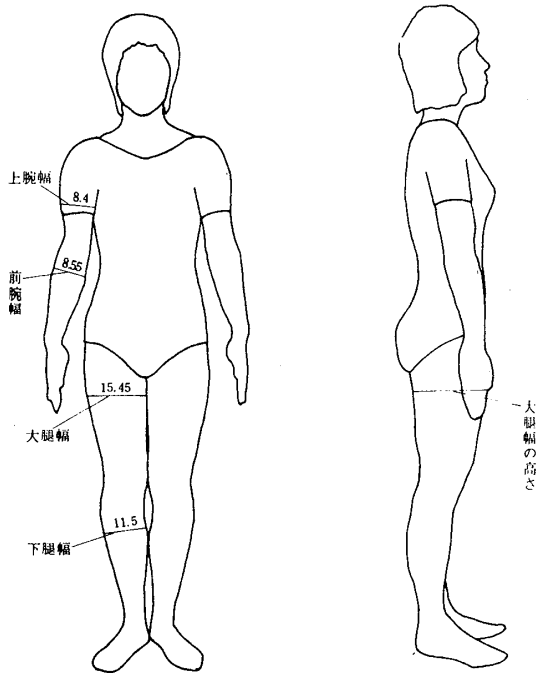
① 被験者

東京女子体育大学の一年生約300名についてシルエット（Silhouetter）による撮影を行い、この中から身長157.5cm～162.5cm、体重56Kg～62Kgのもの51名の印画像をとりあげ分析の対象とした。

このように体格を一定にしたのは、幅育の美しさを評価する時、体格の大小が混入すると評価があいまいになるという懸念からであり、またこの体格の範囲は今までの研究から得た理想的な体格、すなわち身長160cm、体重59Kgを起点として、±0.5σの大きさであった。

② タイプの決定

前述した51名のシルエット像（正面像）を図1に示す方法で計測した。すなわち、



上腕幅……上腕のほぼ中央部の正面幅

前腕幅……前腕を正面からみた最大幅

大腿幅……側面からみた時の大腿最大幅（臀部の直下）の高さにおける正面での最大幅

下腿幅……下腿を正面からみた最大幅

これらの四部位の \bar{x} 、 s 及び、 \bar{x} を境界とする大小2群のそれぞれの \bar{x} は表1のようになった。

つぎに、上腕幅、前腕幅、大腿幅、下腿幅の四部位の大小を組み合わせて、表2に示した16個のタイプに分類した。この表をよこに見ると上肢

（上腕幅、前腕幅）は4個のタイプ

図1 シルエット像と上肢・下肢の計測部位

表1 シルエット像の実測値 n = 51

項目 グループ	生体実測値		シルエット実測値				
	身長	体重	上腕幅	前腕幅	大腿幅	下腿幅	
全体	\bar{x}	159.8 cm	58.6 Kg	8.13mm	8.07mm	16.26mm	11.36mm
	s	3.7	1.9	0.36	0.55	0.47	0.56
大 ($\bar{x}_1 > \bar{x}$)	161.1	59.9	8.45	8.54	16.75	11.66	
小 ($\bar{x}_2 < \bar{x}$)	158.2	57.5	7.80	7.61	15.85	11.03	

とも等しく、また、たてに見ると下肢（大腿幅、下腿幅）が4個のタイプとも等しくなっているが、この配列に従ってアンケート用紙を作成しようと試みた。

③ モデルの作成

四部位（上腕幅、前腕幅、大腿幅、下腿幅）の大小によって分類された16個のタイプを、つぎのような方法でモデル化し、アンケート用紙にのせようとした。

まず、16個のタイプごとに4部位の実測値（生体の10分の1）の2分の1をモデルの大きさとした。

つぎに、将来美しさの尺度化を期するために、モデルの大きさの違いを出来るだけ等しくするとともに、簡約数に修正した理論値を算出し、これをモデルの大きさとした。

理論値にもとづいて16個のモデルを画いたところ、図2、表3に示したように理論値と実際値との間に若干の誤差が生じたが、この研究においては大きな支障がないと考え採用することとした。

④ アンケート用紙の作成

上述の方法によってでき上がった16個のモデルを、一枚の紙にたてに4個ずつ、よこに4個ずつ計16個を等間隔に並べた。原画の中で稚拙な部分を専門家に修正してもらい、説明文を加えて印刷した。（図3）

表2 タイプ別部位の大小について

部位 \ タイプ		A ₁	A ₂	A ₃	A ₄
上肢	上腕	大 ⊕	大 ⊕	大 ⊕	大 ⊕
	前腕	大 ⊕	大 ⊕	大 ⊕	大 ⊕
下肢	大腿	大 ⊕	大 ⊕	⊕ 小	⊕ 小
	下腿	大 ⊕	⊕ 小	大 ⊕	⊕ 小
部位 \ タイプ		B ₁	B ₂	B ₃	B ₄
上肢	上腕	大 ⊕	大 ⊕	大 ⊕	大 ⊕
	前腕	⊕ 小	⊕ 小	⊕ 小	⊕ 小
下肢	大腿	大 ⊕	大 ⊕	⊕ 小	⊕ 小
	下腿	大 ⊕	⊕ 小	大 ⊕	⊕ 小
部位 \ タイプ		C ₁	C ₂	C ₃	C ₄
上肢	上腕	⊕ 小	⊕ 小	⊕ 小	⊕ 小
	前腕	大 ⊕	大 ⊕	大 ⊕	大 ⊕
下肢	大腿	大 ⊕	大 ⊕	⊕ 小	⊕ 小
	下腿	大 ⊕	⊕ 小	大 ⊕	⊕ 小
部位 \ タイプ		D ₁	D ₂	D ₃	D ₄
上肢	上腕	⊕ 小	⊕ 小	⊕ 小	⊕ 小
	前腕	⊕ 小	⊕ 小	⊕ 小	⊕ 小
下肢	大腿	大 ⊕	大 ⊕	⊕ 小	⊕ 小
	下腿	大 ⊕	⊕ 小	大 ⊕	⊕ 小

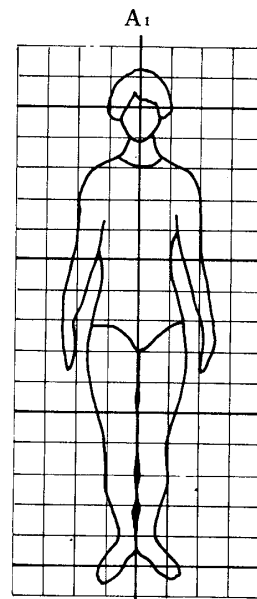


図2. モデル作成の一例

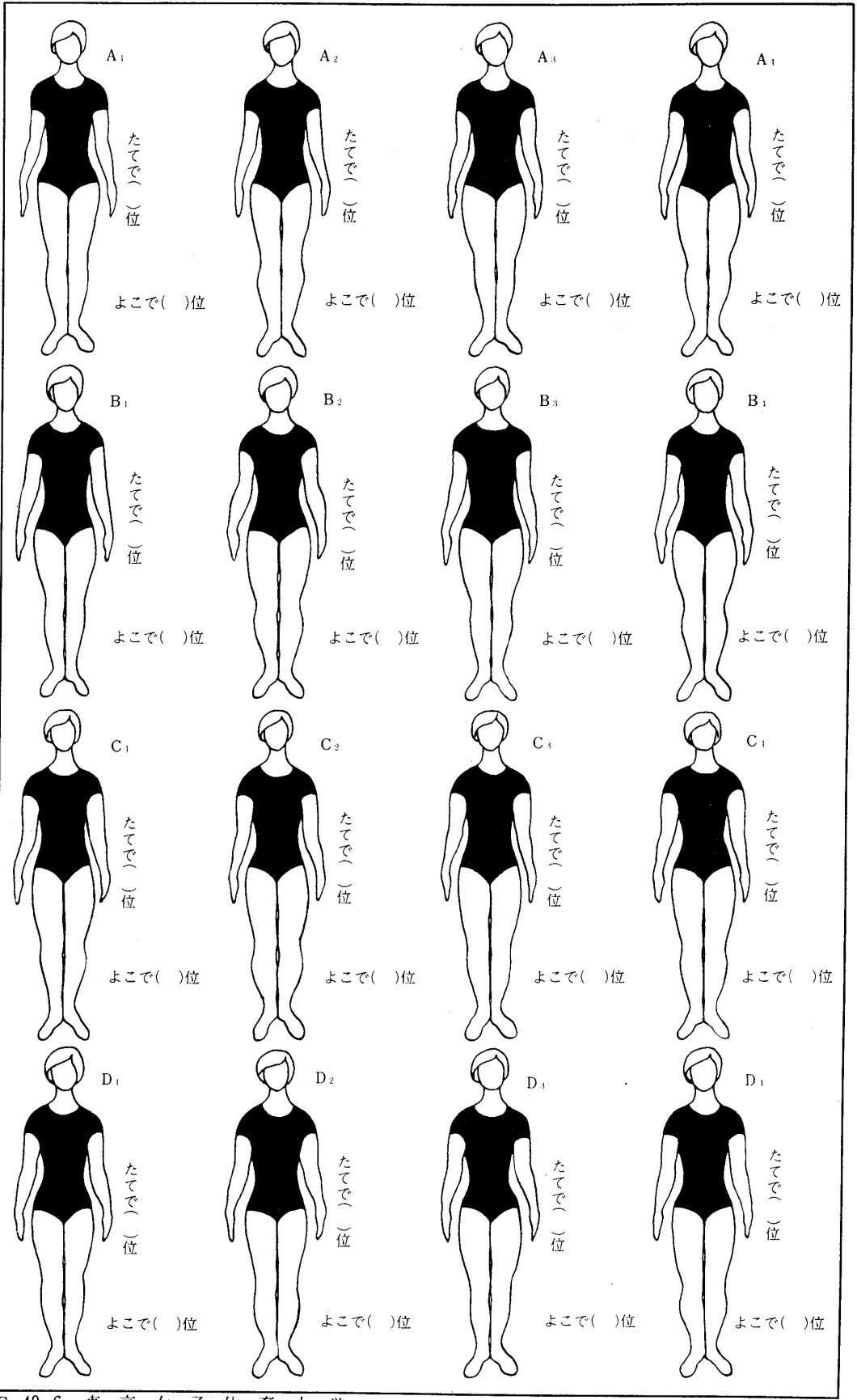
表3 シルエット像の実測値, アンケートの理論値及びアンケートの実測値

(単位 mm)

測定値		モデル															
		A ₁	A ₂	A ₃	A ₄	B ₁	B ₂	B ₃	B ₄	C ₁	C ₂	C ₃	C ₄	D ₁	D ₂	D ₃	D ₄
上腕幅	シルエットの実測値	7.80	7.80	7.80	7.80	7.80	7.80	7.80	7.80	8.45	8.45	8.45	8.45	8.45	8.45	8.45	8.45
	アンケートの理論値	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
	アンケートの実測値	3.7	3.7	3.6	3.7	3.5	3.4	3.5	3.5	4.3	4.3	4.3	4.4	4.0	4.0	4.1	3.9
前腕幅	シルエットの実測値	7.61	7.61	7.61	7.61	8.54	8.54	8.54	8.54	7.61	7.61	7.61	7.61	8.54	8.54	8.54	8.54
	アンケートの理論値	3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0	3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	4.0	4.0	4.0
	アンケートの実測値	3.6	3.6	3.6	3.6	4.0	4.2	4.0	3.8	3.4	3.4	3.6	3.6	3.8	4.2	3.8	4.0
大腿幅	シルエットの実測値	15.85	15.85	16.75	16.75	15.85	15.85	16.75	16.75	15.85	15.85	16.75	16.75	15.85	15.85	16.75	16.75
	アンケートの理論値	7.5	7.5	8.0	8.0	7.5	7.5	8.0	8.0	7.5	7.5	8.0	8.0	7.5	7.5	8.0	8.0
	アンケートの実測値	7.6	7.6	8.2	8.1	7.4	7.3	8.2	8.0	7.5	7.5	7.9	7.9	7.8	7.6	7.8	7.8
下腿幅	シルエットの実測値	11.03	11.66	11.03	11.66	11.03	11.66	11.03	11.66	11.03	11.66	11.03	11.66	11.03	11.66	11.03	11.66
	アンケートの理論値	5.5	6.0	5.5	6.0	5.5	6.0	5.5	6.0	5.5	6.0	5.5	6.0	5.5	6.0	5.5	6.0
	アンケートの実測値	5.5	6.1	5.4	5.9	5.3	6.2	5.4	5.9	5.4	6.3	5.4	5.8	5.4	5.8	5.3	6.0

女子の身体に関する調査

右の図は、女子の上半身、下肢の巾の美しさに関する調査をするためのものです。16個のモデルについて、それぞれに、たて、よこの別に美しいと思われる順に順位をつけて下さい。(たて、よこ共に1位から4位まで)



あなたの性別 男・女
 〃 年齢 満()才
 〃 職業 ()
 御協力ありがとうございました。

II] 上肢・下肢の幅のつり合いについての美しさの評価

① 観察者(評価者)

本研究では、美しさの評価を出来るだけ客観的なものにするために、多数の人に評価してもらった。

観察者の内訳は表4に示した如く、10代男子、20代男子、30代男子、10代女子、20代女子、30代女子各100名、計600名であった。

これらの6群を通じて、学生、会社員、公務員、主婦等出来るだけ多くの階層から観察者を選定することにつとめた。

② 美しさの評価の方法と美しさの順位

評価の方法としては、各モデルごとに「たて」、「よこ」それぞれに1位から4位までの順位をつけて貰い、1位を4点、2位を3点、3位を2点、4位を1点として換算し、各モデルごとに観察者群別の合計点、平均値、順位を算出した。

③ モデルの実物換算

前記の方法によってなされた評価で、最も上位となったモデルを実物に換算するとどのようになるかをしらべてみた。

④ 観察者の性・年齢と美しさの評価との関連

観察者の性や年齢と美しさの評価との間に関連があるかどうかを χ^2 テストによってしらべてみた。

III 研究結果

前述の研究方法によって得た研究結果をまとめると、つぎのようになった。

I] 観察者の性別、年齢別にみた上肢・下肢の幅のつり合いの美しさの評価

観察者が行った上肢・下肢の幅のつり合いの美しさの評価を、モデルごとに観察者の性別、年齢別にまとめてみると表4-1、表4-2のようになった。すなわち、

観察者男子10代では1位がモデルB₁

〃 20代では 〃 B₂

〃 30代では 〃 A₃

観察者女子10代では 〃 B₁

〃 20代では 〃 B₁

〃 30代では 〃 B₁

であって、観察者全体では1位がモデルB₁であった。

II] 最も美しいとされたモデルの実物換算

アンケート用紙に画かれた16個のモデルの中最も美しいとみられたモデルB₁を実物に換算すると、前方からみて上腕幅7cm、前腕幅8cm、大腿幅14.8cm、下腿幅10.6cmであった。

このモデルは、16個のモデルの中で上腕幅小、前腕幅大、大腿幅小、下腿幅小のタイプであった。

III] 上肢・下肢の幅のつり合いについての美しさの評価の統計的検討

表4-1 観察者の性別・年齢別美しさの評価の順位(男子)

観察者		タイプ		A ₁	A ₂	A ₃	A ₄	B ₁	B ₂	B ₃	B ₄	C ₁	C ₂	C ₃	C ₄	D ₁	D ₂	D ₃	D ₄
男	10代 100人	採点 合計	たて	297	348	312	299	316	277	298	274	173	140	205	270	214	235	185	157
			よこ	294	217	322	167	332	174	311	183	299	117	320	264	338	197	286	179
			計	591	561	634	466	638	451	609	457	472	257	525	534	552	432	471	336
			平均	5.91	5.61	6.34	4.66	6.38	4.51	6.09	4.57	4.72	2.57	5.25	5.34	5.52	4.32	4.71	3.36
			順位	4	5	2	11	1	13	3	12	9	16	8	7	6	14	10	15
	20代 100人	採点 合計	たて	267	343	295	243	296	273	286	282	186	148	221	269	251	236	198	206
			よこ	314	207	316	163	322	161	313	204	302	122	320	256	334	185	297	184
			計	581	550	611	406	618	434	599	486	488	270	541	525	585	421	495	390
			平均	5.81	5.50	6.11	4.06	6.18	4.34	5.99	4.86	4.88	2.70	5.41	5.25	5.85	4.21	4.95	3.90
			順位	5	6	2	14	1	13	3	11	10	16	7	8	4	12	9	15
子 30代 100人	採点 合計	たて	258	314	317	278	310	304	293	272	189	144	191	273	243	238	199	177	
		よこ	290	169	346	195	297	167	332	204	301	127	302	270	330	191	307	172	
		計	548	483	663	473	601	471	625	476	490	271	493	543	573	429	506	349	
		平均	5.48	4.83	6.63	4.73	6.01	4.71	6.25	4.76	4.90	2.71	4.93	5.43	5.73	4.29	5.06	3.49	
		順位	5	10	1	12	3	13	2	11	9	16	8	6	4	14	7	15	

表4-2 観察者の性別・年齢別美しさの評価の順位(女子)

観察者		タイプ	A ₁	A ₂	A ₃	A ₄	B ₁	B ₂	B ₃	B ₄	C ₁	C ₂	C ₃	C ₄	D ₁	D ₂	D ₃	D ₄	
女	10代 100人	採点 合計	たて	305	358	274	265	337	289	304	273	135	127	252	312	223	226	170	150
			よこ	346	199	300	155	363	148	307	182	283	111	332	274	346	197	311	146
			計	651	557	574	420	700	437	611	455	418	238	584	586	569	423	481	296
			平均	6.51	5.57	5.74	4.20	7.00	4.37	6.11	4.55	4.18	2.38	5.84	5.86	5.69	4.23	4.81	2.96
	順位	2	8	6	13	1	11	3	10	14	16	5	4	7	12	9	15		
	20代 200人	採点 合計	たて	263	335	271	227	333	306	314	295	173	172	246	299	229	187	169	179
			よこ	311	247	310	132	335	193	304	168	291	124	335	250	338	196	292	174
			計	574	582	581	359	668	499	618	463	466	296	581	549	567	383	461	353
			平均	5.74	5.82	5.81	3.59	6.68	4.99	6.18	4.63	4.66	2.96	5.81	5.49	5.67	3.83	4.61	3.53
	順位	6	3	4	14	1	9	2	11	10	16	4	8	7	13	12	15		
	30代 100人	採点 合計	たて	289	337	279	269	312	272	289	284	168	147	233	290	231	244	199	157
			よこ	317	183	322	118	329	162	313	196	289	143	319	249	342	208	301	149
計			606	520	601	447	641	434	602	480	457	290	552	539	573	452	500	306	
平均			6.06	5.20	6.01	4.47	6.41	4.34	6.02	4.80	4.57	2.90	5.52	5.39	5.73	4.52	5.00	3.06	
順位	2	8	4	13	1	14	3	10	11	16	6	7	5	12	9	15			
総合順位			4	8	2	13	1	12	2	10	11	16	6	6	5	4	9	15	

前述のように、上肢・下肢の幅のつり合いについての美しさの評価が観察者の性や年齢で若干の違いがあることがわかったが、この違いがはたして統計的に意味のある違いであるかどうかをしらべるために χ^2 テストを行ってみた。

その結果は表5の通りであったが、以下その概要について述べてみたい。

㊦ 観察者の性と上肢・下肢の幅のつり合いについての美しさの評価との χ^2 テスト

観察者の性とそれらが行った上下肢の幅のつり合いについての美しさの評価との間に関連があるかどうかを調べるために χ^2 テストを行ったところ、いくつかの場合において χ^2 の値が5~1%水準で有意となった。以下このことについて説明してみたい。

① モデル A₁ (上肢・下肢ともに正面幅の小さいタイプ)について

観察者の性とその評価との関連をしらべたところ、観察者10代男女において χ^2 の値は1%水準で有意となった。

つぎに合計点をしらべてみると、観察者男子10代の合計点が591点(順位4位)同じく観察者女子10代の合計点が651点(順位2位)であり、女子の観察者の評価が男子の観察者の評価に較べてよかった。

モデル A₁ は、上記のように上肢・下肢ともに正面幅が比較的小さいタイプであるので、女子の観察者は男子の観察者に較べて、比較的細めの上肢・下肢を好むことがわかった。

② モデル D₄ (上肢・下肢ともに正面幅の大きいタイプ)について

観察者の性とその評価との関連をしらべたところ観察者10代男女において χ^2 の値は5%水準で有意となった。

合計点をしらべてみると、観察者男子10代が336点、観察者女子10代が296点(順位はともに15位)であり、男子の観察者の評価が女子の観察者の評価に較べてよかった。

モデル D₄ は上記のように上肢・下肢ともに正面幅が比較的大きいタイプであるので、女子の観察者が男子の観察者に較べて、比較的太めの上肢・下肢をより好まないことがわかった。

③ モデル B₃ (上肢の上腕幅小・前腕幅大; 下肢の大腿幅大・下腿幅小のタイプ)について

観察者の性とその評価との関連をしらべたところ、観察者30代男女において χ^2 の値は5%水準で有意となった。

合計点をしらべてみると、観察者男子30代が625点(順位2位)、観察者女子30代が602点(順位3位)であり、男子の観察者の評価が女子の観察者の評価に較べてよかった。

モデル B₃ は比較的腕幅と大腿幅とが大、上腕幅と下腿幅とが小のタイプであるので、立位姿勢のとき体の中央部にふくらみを感じさせる、いわゆる女らしいタイプと考えられる。

従って、男子の観察者が女子の観察者に較べて、上下肢の幅においてはどちらかという女らしいタイプを好むことが考えられた。

㊦ 観察者の年齢と上肢・下肢の幅のつり合いについての美しさの評価との χ^2 テスト

観察者の年齢とそれらが行った上下肢の幅のつり合いについての美しさの評価との間に関連があるかどうかをしらべたところ、いくつかの場合において有意の関連が見られた。

表5 観察者の性および年齢別上肢・下肢の美しさの評価の χ^2 テスト

観察者 モデル	性 別			年 令 別	
	10代男女	20代男女	30代男女	男10・20・30代	女10・20・30代
A ₁	13.331 ^{**}	9.480 [*]	11.290 [*]	10.794	21.843 ^{**}
A ₂	0.350	9.971 [*]	2.831	18.911 ^{**}	28.930 ^{**}
A ₃	15.255 ^{**}	5.556	11.392 ^{**}	11.053	7.999
A ₄	7.037	6.426	2.897	16.026 [*]	25.552 ^{**}
B ₁	11.921 ^{**}	12.264 ^{**}	3.330	5.601	17.021 ^{**}
B ₂	2.473	10.458 [*]	4.653	15.803 [*]	22.170 ^{**}
B ₃	3.301	3.927	8.882 [*]	9.414	5.180
B ₄	5.615	11.378 ^{**}	4.315	8.878	18.229 ^{**}
C ₁	7.493	5.047	2.569	6.824	14.357 [*]
C ₂	4.082	5.981	5.455	4.213	36.504 ^{**}
C ₃	9.189 [*]	4.280	8.538 [*]	10.837	4.329
C ₄	12.023 ^{**}	9.011 [*]	1.211	10.078	18.818 ^{**}
D ₁	0.873	2.612	3.147	10.570	3.871
D ₂	4.638	9.696 [*]	6.186	9.084	25.115 ^{**}
D ₃	1.550	2.744	1.458	8.436	15.270 [*]
D ₄	9.882 [*]	4.497	5.450	10.565	15.650 [*]

* 5%水準で有意…………… { df 3のとき 7.815
df 6のとき 12.592
** 1%水準で有意…………… { df 3のとき 11.345
df 6のとき 16.812

以下このことについて説明してみたい。

① モデル A₁ (上肢・下肢ともに正面幅の小さいタイプ) について

観察者の年令とその評価との関連をしらべたところ、観察者女子10代、20代、30代において、 χ^2 の値が1%水準で有意となった。

つぎに合計点をしらべてみると、観察者女子10代で651点(順位2位)、同じく20代574点(順位6位)、同じく30代606点(順位2位)であって、観察者女子の中では10代の観察者が最もよかった。

モデル A₁ は上肢、下肢ともに正面幅が比較的小さいタイプであるので、女子の観察者の中で年令の低い観察者が比較的細めの上肢、下肢を好むことがわかった。

② モデル D₄ (上肢・下肢ともに正面幅の大きいタイプ) について

観察者の年令とその評価との関連をしらべたところ、観察者女子10代、20代、30代において、 χ^2 の値が5%水準で有意となった。

合計点をしらべてみると、観察者女子10代269点(順位15位)、同じく20代353点(順位15位)、同じく30代306点(順位15位)であって、観察者女子の中では10代の観察者が最も小さかった。

モデル D₄ は上肢、下肢ともに正面幅が比較的大きいタイプであるので、女子の観察者の中で年令の低い観察者が比較的太めの上肢、下肢をより好まないことがわかった。

VI 総 括

女子の身体的理想像に関する研究(その9)として、「上肢・下肢の幅のつり合いとその美しさとの関係について」をとりあげ、アンケート用紙に画いたモデルによってその美しさをしらべたところ、つぎのことがわかった。

① 16個のモデル中、美しさの評価が第一位となったモデルを実物に換算すると、正面幅で、上腕幅が7cm、前腕幅が8cm、大腿幅が14.8cm、下腿幅が10.6cmであった。

このモデルは、16個のモデルの中では前腕幅のみが大きい方で、他の3つの幅、すなわち、上腕幅、大腿幅、下腿幅がともに比較的小さいモデルであった。

② 観察者の性や年令によって、上肢、下肢の幅のつり合いについての美しさの評価に差があるかどうかしらべたところ、観察者女子の方が観察者男子に較べてより細めの上下肢を好むが、男子の観察者は女らしい中ふくらみをより好み、また観察者女子の中では、年令の低い観察者の方が他の観察者に較べてより細めの上下肢を好むことがわかった。

V 反 省

この研究は、女子の身体的な美しさを数量化し、理想的形態を数値であらわすとともに美しさの尺度を作って、今後の女子体育の指導に役立てたいと考えたのであるが、終ってみると不備な点が数多く出て来た。

その一つは美しさの尺度化が殆んど出来ていないことである。尺度化のためにはより多くの被験者を測定して、安定した数値を得るとともに、モデルを数多く揃えることが必要であろう。

つぎに、アンケート用紙に画くモデルの出来ばえである。被験者から得た理論値を出来るだけ大切にしながら、分析要素以外はすべて均一にし、しかも自然な姿を失わない略画を得なければならない。

以上の2点のほかにもいろいろ不備な点が多く、汗顔の至りであるが、将来とも限られた時間と予算の中で出来るだけの努力をしてみたいと思っている。

註

本研究は、本学々生川嶋ひろ子、和田三枝子の両君の協力によってなされたものであり、また、この研究の概要を日本体育学会第25回大会で発表したことを附記します。

参 考 文 献

- 1) 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その1) 東京女子体育大学紀要 1967
- 2) 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その2) 東京女子体育大学紀要 1968
- 3) 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その3) 東京女子体育大学紀要 1969
- 4) 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その4) 東京女子体育大学紀要 1970
- 5) 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その5) 東京女子体育大学紀要 1971
- 6) 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その6) 東京女子体育大学紀要 1972
- 7) 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その7) 東京女子体育大学紀要 1973
- 8) 和泉貞男「女子の身体的理想像に関する研究」(その8) 東京女子体育大学紀要 1974